学校法人 浪越学園
日本指圧専門学校
浪越学園だより
JAPAN SHIATSU COLLEGE NEWSLETTER
2019 VOL.20 Dec.

ヨーロッパ指圧講習会開催

11月23・24日の2日間、イタリア、スペイン、メキシコ、ポルトガル、ドイツから指圧の講習を受けに20名が来校されました。

ヨーロッパでは、1984年にスペイン・マドリードに治療院を開業、続いて指圧学校が開校し、ヨーロッパの指圧団体「ヨーロッパ浪越」が立ち上げられました。これらの指圧普及活動にご尽力され続けている小野田茂先生（第25期卒業生）が代表を務める「ヨーロッパ浪越」のメンバーが来校され、今回は、小野田茂先生に代わりご子息の一生先生がメンバーの代表を務めていました。

講習では、小林秋朝先生（日本指圧専門学校非常勤講師）による腰痛、膝関節症の応用指圧を行い本校教員もサポートに就き圧点の位置、姿勢や体重移動、四指の使い方など受講生一人ひとりに指導しました。受講生の皆さんは母国で地道に身体障害者のボランティア指圧をしているそうです。2日間の講習に皆さん満足していました。

受講生も各国で指圧治療をしています。祖父、浪越徳治郎が“指圧を天下に広めよう”と大望を抱いて上京してから86年、指圧が世界に広まり続けています。

事務長　浪越 雄二

指圧が今、世界に広まり続けています。

写真左上＝小林秋朝先生による腰痛応用指圧指導。右上＝膝関節症応用指圧指導
左下＝「ヨーロッパ浪越」代表の小野田一生先生

賑わった９月の「ゆびまつり」

第15回学園祭

毎年7月に行われていた「ゆびまつり」ですが、今年は9月に行われました。町内会のお祭りと合わせての開催だったため、本校舎前の通りは大にぎわい。1年生は坐位指圧、2・3年生はチャリティ指圧を担当し、毎年恒例の指圧連による演舞、イベントスペースでのライブ、今年初の試みである浪越徳治郎展示コーナーなど、全校一丸となって行事にあたりました。おかげさまで、地域の方やご家族・ご友人に浪越学園と指圧を知って頂く良い機会になったかと思います。

来年も、今年以上に楽しい学園祭にして頂ければと思います。最後になりますが、準備や運営に関わって頂いた方々、お客さんを呼んでくださった方々、どうもありがとうございました！

(3年B組　土橋 美紗)

イベント会場の様子

浪越徳治郎展示コーナー

進路を明確にしモチベーションUP ！

令和元年度 第１回 合同会社説明会開催

10月26日（土）14～16時、日本指圧専門学校の本校舎3～5階で今年度1回目の合同会社説明会が開催されました。訪問マッサージ、指圧治療院、整骨院など合わせて22社様が来校し、学生に対して業務内容や雇用条件を丁寧に説明してくださいました。学生の参加は３年生はもちろん、1・2年生も多く見うけられました。

卒業後の進路を明確にすることで、知識や技術の修得へのモチベーションを高めることにつながります。「話を聞けてよかった」、「卒業までの課題ができた」など、学習意欲向上のきっかけ作りができました。しかしながら授業の都合上、開催時間が限られてしまうため、「もう少し話を聞きたかった」、「他にも興味がある会社があったのにまわりきれなかった」という意見もありました。今後、更に有意義なものとするため、アンケートを行って改善をしていきたいと考えています。(教員　本多 剛)

ペップトークに学ぶ

沼津で東洋療法学校協会・第43回教員研修会

8月6～7日にかけて東洋療法学校協会主催の教員研修会に参加して参りました。東京も連日の酷暑でしたが、沼津も暑かった…。男性教員４人、ダラダラと汗を流しながら会場を目指しました。

研修の中で特に会場を盛り上げたのは、ペップトークの教育講演でした。「ペップトーク」とは耳慣れない言葉ですが、選手、生徒、部下などを励ますのに、監督やコーチなどの指導者が試合前（本番前）に使う“肯定的な言葉を使った”スピーチのことで、米国のスポーツ分野などでは一般的に用いられているものだそうです。学生のモチベーションも学校教育の中では重要な要素なので、今回の学びから教員と学生の間の肯定的なイメージの共有を強化していきたいと思います。(教員　大木 慎平)

指圧による呼吸機能上昇について発表

大阪で東洋療法学校協会主催「第41回学術大会」開催

10月11日（金）に東洋療法学校協会主催、第41回学術大会が大阪国際交流センターで行われました。この日は、台風19号の影響もあり移動の不安がありましたが、全員無事に参加することができました。

指圧研究会の今年のテーマは「指圧による肩関節伸展可動域・呼吸機能の変化について」です。なぜこのテーマにしたのかというと、実技の授業で先生方がよく“胸部指圧で呼吸が楽になる”という内容の話をされますが、本当にそうなのか実験で試してみたいと3年生の田島さんが発言したことがきっかけでした。今回の研究では、呼吸機能（努力性肺活量）は指圧によって上昇するという結果がでました。

難しいことをするのが研究とは限りません。日常にある素朴な疑問からスタートすることも多いのです。こんな発想こそが学生らしい研究になると私は考えています。

顧問の森英俊先生を囲んで

口頭発表の中山修一さん（右）、田島優子さん（中央）、髙木大二朗さん（左）

我々教員も初心にもどり、「なぜ？」を大切に授業や研究をすることが、あん摩マッサージ指圧師の社会における貢献や職域の拡大につながると信じます。（指圧研究会顧問　浅谷 健介）

選手の身体の柔軟性に驚き

ラグビー W杯出場国のケアをして

浪越学園のOBのつながりで、ラグビーワールドカップ出場選手のケア担当者の募集があることを知りました。前職で中～大学生のラグビー部員のケアを行ったことがあったので、人生最大のハッタリ？（←できることの）を添えて（笑）応募しました。8/17、半ば諦めていた頃にメールを着信。アルゼンチン代表チームからの依頼でした。他の仕事との絡みもあり、私は都内ホテルでの1日のみでしたがケアに伺うことができました。会場はミーティングルームなどで、私を含めてマッサージ担当10人＋理学療法士2人、専任のフィジオスタッフがいました。

驚いたのは選手の身体の柔軟性です。もちろん主訴は疲労がたまっていたり硬いのですが、全てがガチガチなのではなく“ぶつかり合いに耐えうる柔らかさ”“攻めるために必要な可動域”は、代表に選ばれるだけあると感じました。

残念ながら死のグループと言われた予選リーグで敗退してしまいましたが、ほんの少しでも選手に関われたことは貴重な経験でしたし、前職の社長から言われた“一流の選手に触れること”の大切さを改めて感じました。（第46期卒業生　八馬 華恵）

一流選手へのケアに確かな手応え

2019年ラグビーW杯が終わると共に、セラピストとしての仕事も終わりました。今は選手と顔を合わせることができず寂しい思いもあります。お話を頂いたときは、とりあえず登録だけをすませ、返事を待つというものでした。結果、ニュージーランド代表は全日程、アルゼンチンは1日のみ任せられることになりました。蓋を開ければ指圧をメインに施術することができましたが、お話を頂けた理由はオイルマッサージができ、英語でコミュニケーションが図れることだったのではないかと思います。

今回つくづく思い出されたのは、浪越指圧トレーナー部時代に教わったことでした。これはかなり大きかったです。学校の裏庭（バックヤード）で学んだことが、ことオールブラックスの試合の裏庭（バックヤード）において生かされることになりました。ですから、今では学校に「NSCA-CPTパーソナルトレーナー養成講習会」があるのは羨ましい限りです。より深く、長く学ぶことができますよね。W杯は単純に私の自信になっただけでなく、自分の手技のルーツが確かだと裏付けるものになりました。結果的に指圧でオールブラックスの選手のコンディションを支えることができたわけですし、施術しながら“いい仕上がり”を選手の身体に感じたとき、またその選手が試合で活躍されたとき、確かに“裏庭（バックヤード）にあったはずの知識が表に出たんだな”と独り感動していました。

これからも、在校時に学んだことをどんどん実践していきたいと思います。（第55期卒業生　白鳥 環）

海外指圧講習会 ～2019年8月～

受講生は本校女子に似た雰囲気？

フランス・パリの指圧学校で実施

今年もパリにある指圧学校IFS（Institut Français de shiatsu）における浪越指圧の講習を行う機会を頂きました（今年と昨年の記事もHPにて公開中）。とても光栄です。

参加者の8割が女性であり、それぞれが仕事として指圧を行っている。活き活きとしていてパワーがあります。本校の女学生さんと同じ雰囲気。その中にいると心地いい。これが母ごころの世界なのでしょうか。フランス人の中にいて、言葉がわからなくてもNo stress でいられる。本校の女学生がフランス女性に近いのか、はたまたフランス女性陣がうちの女学生に近いのか。とにかく感じがいい！実に品がいい！

今年、プライベートのフランス旅行中に手伝いに来てくれたみゆきさん（在学中）もその中の一人。パリ到着直後なのに、一緒にカエルの脚を食べるため、メトロに乗って会いに来てくれました。講習会にも顔を出してくれて、写真をバシバシとってもらいました。何も言わなくてもうまいことやってくれちゃう人。だいぶお世話になってしまいました。

カエルの脚…ワタナベとみゆきさん

浪越指圧は世界に存在を示せるスペシャリティであります。海外の指圧師と浪越指圧をシェアするのは心嬉しい時間でした。私自身の更なる向上を！（教員　渡邉 和雄）

アオザイ姿で来校

ベトナムより来校

8月6・7日の2日間の講習に、ベトナムからの受講生7人が民族衣装アオザイ姿で、来校されました。

今回の講習内容は、妊婦さんを対象とした指圧実技で、横臥位と仰臥位のテーマに沿った応用指圧講習を行いました。

1日目は、浪越雄二事務長による仰臥位（頭部、顔面、頸部）の実技講習。妊婦さんの負担にならない姿勢などを説明。2日目は、長濵有子による横臥位（頸部、肩甲骨周り、下肢）の実技講習。横臥位という難しい姿勢での施術に、苦戦しながらも熱心に学んでおられ、浪越事務長・長濵の臨床経験による応用指圧講習を行いました。

ベトナムでは指圧は医療と認められず、リラクゼーションと一括りになっているため、受講生の職業もスパのオーナー、ネイリスト、エステティシャンとさまざまでした。帰国後は浪越指圧の手技を仕事に取り入れ、活かして頂きたいと思いました。（治療部　長濵 有子）

ベテラン受講生から質問も多数

オランダより来校

猛暑の8月23日に開催されたオランダからの受講生（13人）を対象とした講習は、浪越雄二事務長が講習担当を務め、伏臥位での基本指圧を行いました。

受講生は皆、現地で指圧師として従事しており、臨床経験を積んだベテラン揃い。デモンストレーション中には多く質問が飛び交い、垂直に圧すための姿勢や圧を入れる角度について、議論されている様子を見るとオランダで活躍されている姿が想像できました。

講習後には修練会で在校生との交流、修練会顧問の小林秋朝先生から横臥位での基本指圧について説明を受けました。その後、学校内の施設を見学しました。「帰国後に浪越指圧を自身の施術に取り入れたい」といった感想を聞き、喜んでもらうことができました。

（事務局　横塚 秀樹）

左から小林秋朝先生、Bram Bakker氏、浪越雄二事務長

もっと知りたい！

NSCA-CPTパーソナルトレーナー養成講習会 Q&A

4月に開講した「NSCA-CPTパーソナルトレーナー養成講習会」について
担当の石塚洋之先生に素朴な疑問をぶつけてみました。受講生の声と併せてお届けします。

Q なぜ講習会がスタートしたのですか

A 今後の“スポーツ需要の増大”これが一番大きいです。2020年の東京オリンピック開催によるスポーツブーム、超高齢化社会に向けた健康維持増進への動きなどもあり、今後は老若男女問わず多くの人々がスポーツ／運動を生涯に渡って続ける人が増えていきます。スポーツ／運動というのは身体に負荷（ストレス）を与えるものである以上、間違えれば怪我が起こりますし、運動をすれば疲労が発生します。怪我を起こさないためにも、疲労に対しても、また健全な関節や筋機能を作ることで健康的にスポーツ／運動が楽しめます。そこに貢献できるのが身体もケアできる指圧師の出番です。指圧の知識・技術とスポーツの知識が合わされば来たるスポーツ需要の増大にとても良い形で対応できる、という思いで講習会の設置を考えました。

Q 講習会の特長を教えてください

A 講習会ではNSCA-CPTパーソナルトレーナー試験に合格するための必須科目はもちろん、さまざまなフィールドで活躍するために盛り沢山の科目を用意しております。スポーツ傷害・外傷学・スポーツテーピング実技・スポーツ指圧実技・緊急時対応・アスレティックリハビリテーションなど、具体的な講習会の科目はHPをご覧ください。

授業は毎週月・水・金曜日の14～15時、15時15分～16時15分で1日1時間を2時限行います（休み時間15分。夏休み中や祝祭日は行いません）。ウエイトトレーニングや有酸素運動の実技・実習は最新機器が揃う充実した環境の日本大学スポーツ科学部（三軒茶屋キャンパス）を使用致します。年度の前半に座学としてパーソナルトレーニング基礎を学習した上で科学的理論に即した形でトレーニング実習に入ります。また、スポーツ傷害・外傷学を学んだ上でテーピングや緊急時対応も学ぶスケジュールになっており、実技を交えて学習を進めていくところにも学びやすさを感じて頂けると思います。

Q スポーツトレーナーになるにはどうしたらよいですか

A スポーツトレーナーは、現在の日本では国家資格ではありません。そのため、誰でもスポーツトレーナーになれてしまいます。また、昨今はスポーツブームでもあり、さまざまなトレーナーやトレーナーの協会も存在します。しかし、その多くが資格をとっても就職や現場では活かされないものも多いのが現状です。協会母体がしっかりと確立しているものには日本においては日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナーとNSCAまたはJATIパーソナルトレーナーになります。

この2つのトレーナーには業務の違いがあります（講習会内で学習致します）。誰でもなれてしまうトレーナーですが、現在のスポーツトレーナー界ではスポーツ医科学の知識が求められており、「スポーツ医学検定」というものもあるくらいです。これはトレーナーをしてはいるが医科学的知識に乏しいという人向けに行われています。または“医科学を学びました”という証明のために取る人もいるようです。

このように現在のトレーナーにはスポーツの知識と医学・科学の知識を有した人材が求められていますが、医学に関しては本学が専門とする分野です。そこにNSCA-CPTパーソナルトレーナー養成講習会でのスポーツ教育が加わり、現在のニーズにあうスポーツトレーナーになることができると考えます。

Q 受講生にはどんな人がいますか

A スポーツトレーナーを目指す受講生はもちろんですが、そればかりではありません。将来は訪問マッサージ（寝たきりの高齢者に対応）に進む受講生もいます。なぜなら、あん摩マッサージ指圧師は機能訓練指導員という肩書もあり、障害をもたれた方へのリハビリを行う際にも、スポーツトレーナーの知識や技術が活かされるためです。他にも鍼灸の資格を既にもっている受講生もいます。当講習会は、鍼灸の学校でも習えない初めての知識が得られる場とも言えるでしょう。

受講生の声

2年C組　海野 雄介

私がこの講座に参加しようと決めた理由は、指圧での不調の治療や予防に加えて、“より積極的な身体ケアと体力の向上を患者様にご提供できる治療家を目指したい”と考えたからでした。この講座では、トレーニングの知識のみならず、様々な運動の現場で役に立つ知識を学べるので、徐々に健康志向が高まっているこれからの社会に活かして行けると思います。

3年B組　小原 由希

パーソナルトレーナーに必要な授業以外にも、現場で活動する卒業生から指圧を学べる時間です。あらゆる場面での「意識の持って行き方」など吸収することが多いセミナーでした。また、学んだことをスポーツの現場で応用できるため、セミナーに入って幅が広がりました。

気温差によるコンディション調整の難しさも

9/27～10/6 ドーハで世界陸上競技選手権大会

昨年度のアジア大会（ジャカルタ）へ関東学連指導者派遣に続き、本年度は2019世界陸上競技選手権大会（カタール・ドーハ）へ同じく関東学生陸上競技連盟指導者派遣プロジェクトで行ってまいりました。

急遽の決定ということもあり、女子やり投げに出場する北口選手のスケジュールに合わせた9月29日～10月3日という強行スケジュールとなりました。

この時期のドーハは、日中の気温が43℃前後、夜も30℃を下回ることがありません。また、競技場内は空調により20～25℃程度にコントロールされていましたが、外気温との差が激しく身体には大きな負担がかかる環境であったと感じています。そのような中で選手がコンディションを整えることの難しさを感じましたし、コーチ・トレーナーを含めたスタッフも体調管理に関しても留意しなければならないことを学んだ旅となりました。

北口選手は惜しくも予選敗退となりましたが、その後の国内大会で66m00㎝という日本新記録（自己の持つ記録を更新）を樹立し、確実に力をつけています。2020東京オリンピックでの活躍に期待です。

現地において教員・金子泰隆

選手が望む身体の状態を理解すること

第66回朝日杯争奪日本学生ゴルフ選手権／第22回朝日杯争奪日本女子学生ゴルフ選手権／第63回信夫杯争奪日本大学ゴルフ抗戦／第20回信夫杯争奪日本女子大学ゴルフ対抗戦

10月30・31日の2日間、日本大学ゴルフ部の大会への同行について報告致します。会場の千葉県野田市にある千葉カントリークラブ梅郷コースは、日本オープンも開催された実績あるコースです。

同ゴルフ部からは女子6名男子6名の選手が出場しています。初日は個人戦の最終日、2日目は団体戦の初日にあたります。浪越学園からはOB1名、学生3名がトレーナーとして会場クラブハウス内で活動しました。OBの私は初日、11時から会場入りし、ラウンドを終了した選手からケアを始めます。学生の皆さんは授業終了後、14時半に合流しケアに入って頂きました。2日目は競技スタート前のケアに備え6時15分にクラブハウス入りして始まり、午後には1日目同様、学生の皆さんと合流し選手のケアを行いました。

今回参加された学生の2名は前回の大会は見学のみでしたが、今回は実際にケアに従事することで現場の緊張感を肌で感じ、そこでしか得ることができない“モノ”をいくつか手にしたのではないかと思います。私自身も前回大会を踏まえたコーチからの要望、注意点を聞き、それを課題にすることで、新たな“モノ”を身につけられました。

スポーツ選手をケアする上で念頭に置かなければならないことは、ある動作を何回も何回も繰り返して身体を作り込んできていることです。言い換えると身体に“クセ付け”をしています。肩のラインが斜めに傾いていたり、骨盤が捻れていたり、様々なクセが付いています。その身体に染み付いたクセを取り除き、選手の身体が楽になり、軽くなれば全てが上手くいくかというと、そうでもありません。かえって感覚の狂いが生じてうまく動けなかったり、結果が伴わないことも起こり得ます。試合前、試合中、試合後と様々な場面でケアするスポーツ現場では、選手とのコミュニケーションで身体を仕上げるための情報を揃えなければなりません。痛みがあっても、違和感が残っていてもその方が良いと判断するなら、それを納得してもらえるように説明することがトレーナーの仕事です。トレーナーとしてのキャリアの差はこういったところに表れるのだと思います。

他のスポーツでの同行実績はあるものの、ゴルフ選手への同行は今回で2回目です。経験を積み重ね、より適切なケアを行えるようになりたいと思います。（第53期卒業生　松本 健二）

アスリートに触れる貴重な機会

天皇賜杯第88回日本学生陸上競技対校選手権大会（全日本インカレ陸上競技会）

9月12～15日の4日間、岐阜県で開催された大会に、日頃よりお世話になっている日本大学陸上部のトレーナーとして参加してきました。

選手の身体のケアがメインになりますが、NSCA-CPTパーソナルトレーナー養成講習会に所属する学生が多く参加してくれたので学生たちに少しでも勉強になることを伝えられればと思う大会でした。試合前、試合後のアスリートに触れる機会は滅多にないですし、OBも参加してくれているので体験談など様々な話を聞くことができる良い実習になると思います。

これからも日本大学との良い関係を築いていき、学生にとってもっともっと充実した良い実習だと思ってもらえるような環境を作っていければと思います。（治療部　小山田 笑）

緊張感に満ちた雰囲気に圧倒

博多で第103回 日本陸上競技選手権大会

6月27日から3日間、博多で行われた日本陸上競技選手権大会に行ってきました。

実は陸上競技の知識も乏しく、オリンピックもまともに観たことがないほどスポーツに関して無知だったのですが有名選手に会える⁉と軽い気持ちで参加を決めたのが正直なところです。しかし、会場に着き選手達が控えているバックヤードに入ると浮かれた気分は一変。緊張感に満ちた雰囲気に圧倒されました。そんな中で、出場する選手のケアを行っている先生達。先生を見つけて笑顔をみせる選手もたくさんいました。

試合直前は、身体を触られることが怖いと考える選手もいると聞きました。それゆえに、ケアを委ねられるのは本当に信頼している先生だからこそだと思いました。選手からの質問や要望など、全てに答えている先生を見て、“私もいつかはこうなれるのだろうか？　いや、ならないといけないんだ”と改めて気持ちが引き締まる思いでした。今回、このような貴重な体験ができたのは幸せでした。

あと1年と少し、この時に感じたことを心に留め、学校生活を送りたいと思います。（2年B組 佐々木 佳美）

やり投げの北口榛花選手と金子泰隆先生

SHIATSU volunteer

過去最多の来場者

11/2,3 ー日本大学スポーツ科学部 第４回「三茶祭」

昨年に続き参加しましたが、今年は大学1～4年生が揃う初めての学園祭ということもあり、2日間合わせて過去最多の269名の方が指圧を受けて下さいました。なかには指圧ブースのために学園祭にいらした方もいるほどで、地域における指圧のニーズ・魅力を自分の目で確かめる貴重な機会になりました。

指圧をよく知らない、受けたことがない方に対して一期一会の指圧をすることは、より臨床の環境に近く、学外での手技経験がない私にとっては大きな経験となりました。昨年参加時からの成長を実感し、新たに課題を見つけ、なにより「体が楽になった！」「ふらっと入ったけど指圧を受けてよかった！」と仰って頂くことで、良い指圧をするために一層の修練に取り組もう、と思えてきます。

このような素晴らしい機会をご用意頂きました日大関係者の方々、浪越の先生方、学生

が少ない時間帯にご助力頂いた卒業生の先生方に感謝申し上げます。(参加学生代表)

大教室で昨年以上の盛況

11/9,10 ー第70回お茶の水女子大学学園祭「徽音祭」

徽音祭への参加も９年目を迎えました。もともとこの企画は学園祭を学生のみならず地元の方にも楽しんで頂きたいという学園祭委員のアイデアをもとに生まれました。昨年まで本館1階の教室が会場でしたが、本年は大教室となり2倍以上の広さになりました。９年前の屋外テントでの実施を思うと、指圧が徽音祭の大切な企画として位置づけられていると感じます。

会場は３階にあり、他のイベントから離れていたため、果たして例年通りたくさんの方に来て頂けるか一抹の不安もありました。しかし、始まる午後１時近くには多くの方が集まり始め32脚用意した座位指圧のブースはアッという間に埋まり、終わってみると昨年を大きく上回る460名の方に体験して頂くことができました。

本年は通常の座位指圧に加え、来場者の希望に応じて下肢（膝から下）も座位で指圧を行いました。頸や肩が凝っている方も多いのですが、会場を回りひと休みで訪れた方は下肢の疲れを訴えることも多く、大変好評を博していました。また、本年はお茶の水女子大学の実験も我々のブースに加わり例年以上に賑やかになりました。指圧協会を通して多くの卒業生も参加して頂きました。来場者への対応、施術方法など在校生にも多くの学べるものがあったように思います。

これまで来場者の多くは同大学の学生さんでしたが、現在はさらに学生さんの父兄、同大学への入学希望の高校生、ご近所にお住まいの方

など、幅広い層に広がっています。また本校生徒のひた向きな施術のおかげで指圧を受けた方は皆笑顔を見せてくれました。これだけ多くの方に来て頂けるのは指圧の効果や押される気持ち良さだけでなく、押し手と受け手の心の交流、言い換えれば触れることで伝わる人の手のぬくもりを多くの方が求めているのだと思います。生徒たちの努力に改めて指圧の良さと可能性を感じた徽音祭でした。(教員　高橋 雄輔)

海外講習生との交流も

11/24 ー第45回礫川マラソン

11/24（日）、前日より降り続いていた雨もようやく上がり、予定通りに礫川マラソン大会が行われ、参加したランナーに対しボランティア指圧を行いました。今年で45回目を迎える大会は、老若男女問わずたくさんの方が参加し、冬間近の寒空の下にも関わらず、汗びっしょりになって走っている姿もありました。そのうち34名のランナーがゴール後に指圧を受けに来られ、なかには本格的な現役大学生ランナーや毎年走った後必ず指圧を受けに来ているという方もおられました。

金子泰隆先生指導の下、在校生9名で選手の要望箇所に応じて横臥位、伏臥位、仰臥位の基本指圧を行いました。「疲れが取れました」「体が軽くなりました」と感謝の言葉は嬉しく思いました。

当日は、ヨーロッパから20名の方々が指圧講習会に参加されていて、講習会の合間に

私たち在校生と交流の機会があり、和気藹々と過ごした素晴らしい1日になりました。

今後も指圧ボランティア開催の際は地域の方々や指圧に興味のある皆さまに是非とも“指圧”を受けに来て頂きたいと思いました。(1年Ａ組　菱田 基)

年齢制限なく活躍できるチャンスが到来

第14回 カナダ海外指圧師研修制度

11月6日、母校で「第14回カナダ海外指圧師研修制度」の説明会をさせて頂きました。

昨年までは、ワーキングホリデー制度を活用したプログラムで、主に新卒を中心とした若い人を多く受け入れてきました。そのため、社会人としてある程度の経験を積み、第二のキャリアとして指圧師の道を選んだ方々には、30歳までという年齢制限の壁のために、指圧師同士が価値観を共有しながらも多くの場合、門戸を解放することは叶いませんでした。しかしながら、昨年末に発効した日本カナダ両国が加盟する環太平洋パートナーシップ条約締結により大きく風向きが変わりました。今年からは従来の若者向けのプログラムに加え、年齢にとらわれず幅広い人材をカナダにお迎えする道が拓けて参りました。

今後とも新卒・既卒を問わず、日本の指圧をカナダに、そして全世界に広める活動に賛同して頂ける方々の参加を心よりお待ちしております。

（第28期卒
池永 清）

News from Treatment Center of NAMIKOSHI SHIATSU

治療センター通信

本校舎併設の浪越指圧治療センターから現場の指圧師の声をお届けします。

vol.2

10月29・30日に派遣先のJapan Sports ヴィムスポーツアベニュウの研修旅行に参加させて頂きました！　静岡と山梨で研修があり、3人1組で時間内に田貫湖の周りを歩きながらミッションをこなし、ポイント獲得数で競うチームビルディングや、キックベースやサッカーバレーなどボールを使って走ったり、楽しく身体を動かす研修でした。夜はヴィムスタッフの皆さんとご飯を食べながら、たくさん話したり、ちょっとしたゲームをしたり、あまり接点のないスタッフの方とも親睦を深めることができました。

本当に素晴らしいスタッフの方々のおかけで、充実した笑顔溢れる素敵な2日間を過ごさせて頂きました。これからも派遣先のヴィムスポーツアベニュウでも、指圧を頑張っていきたいと思います！

（浪越指圧治療センター 北村 陽子）

オープンキャンパス 個別相談会 スケジュール

Open Campus
オープンキャンパス

12/19（木）
18:00～20:30

2020年1/9（木）
13:30～16:00

Individual Consultation
個別相談会

2020年1/31（金）
13:30～、14:30～、15:30～

場所：日本指圧専門学校　本校舎

参加方法：HPから、もしくはお電話による事前申し込みをお願いしております。各回に特色がありますので、詳細はHPでご確認頂くか、お電話でお問い合わせください。

●令和 2 年度 入試日程（令和２年４月入学）

試験区分	出　願　期　間	入学選考日
一般入試［第２次募集］	令和元年 12月　3日(火)～12月12日(木)	令和元年　12月15日(日)
一般入試［第３次募集］	令和２年　1月　7日(火)～１月16日(木)	令和２年　１月19日(日)
一般入試［第４次募集］	令和２年　1月31日(金)～２月　6日(木)	令和２年　２月 9日(日)
一般入試［第５次募集］	令和２年　2月25日(火)～３月　5日(木)	令和２年　３月 8日(日)

※一般入試［第３～５次募集］は、定員に達した場合実施しません

JAPAN SHIATSU COLLEGE

浪越学園だより　第 20 号
発行日：2019 年 12 月 11 日
発行人：理事長 浪越和民
発　行：学校法人浪越学園 日本指圧専門学校
〒112-0002　東京都文京区小石川２丁目 12 番４号
TEL.03-3813-7354／FAX.03-3812-5003
http://www.shiatsu.ac.jp/

編集・制作：国際医学出版株式会社